

資料 1 1年間の活動のまとめ—成果と課題—

	【令和元年度の反省・令和2年度の課題】	【令和2年度の重点】	【成果と課題】
教科指導面	思考・判断・表現の育成は定着してきたものの、依然、学力向上にはつながっていない。育成したい生徒像をしっかりと描き、生徒の学ぶ意欲を高めるにはどうすればよいか。	県総合教育センター研究提携校としての研究開発について、学校全体で情報を共有し、全職員で思考力・判断力・表現力の効果的な育成を目指した授業改善に取り組む。	研究開発係を中心に学校全体で取り組む機運が醸成できた。一方、教科横断的な視点の授業実践については感染症の影響で取組が不十分であった。次年度以降の研究課題としたい。
生活指導面	生徒の生活態度や部活動等の活動は良好であるが、部活動やボランティア活動を通じた地域との関わりは薄い。この点をどのように解決し、生徒の貢献する気持ちをいかに育てるか。	生徒が主体的に授業やその他の活動に取り組むことができる機運を醸成する。また、信頼関係や、風通しの良い校風をベースとし、和の力の具現化を目指す。	保健部と生徒会がコラボし、生徒ひとりひとりが今できる感染症予防運動「SHOYOムーブメント」の取組を始めた。今後も取組を継続し、和の力の具現化に努めたい。
進路指導面	学科・コースの活動は良好であったものの、進路実現やClassi等の活用は不十分な面があった。学力向上を図るとともに生徒の個性を見極めた指導体制を確立するにはどうすればよいか。	学科・コース等の行事等の目的等を改めて明確に示し、意味づけを行い、生徒のモチベーションを高め学力向上等を図る。 Classi等の活用促進を図り双方向のコミュニケーションツールとして機能を果たす。	臨時休業や分散登校等の対応をせざるを得ない状況下で、Classi等の活用の必要性に迫られた。今後、ICT機器の整備が進むことから、学科やコースの特性を踏まえ、機器を有効に活用できるよう準備を進めたい。
施設設備面	音楽科・美術科の予算措置を受けた要補修箇所の整備や、グラウンドの改修について本庁へ相談を行った。今後も、補修予算の獲得に向け適時、本庁への相談等をいかに行っていくか。	予算措置を受けた施設設備の整備や補修を行うとともに、今後補修等の必要な箇所の状況を常に把握し必要な経費や期間の情報を整理し、本庁に適時に相談を行っていく。	予算措置された計画的な設備等補修を8月中までに終え、本年度に入り補修等が必要となった箇所の整備計画を本庁に提出し、本年度補修可能なものは予算をもらい対応中である。
その他	音楽科・美術科の推薦入学志願者は増えたものの、まだ松陽高校の魅力を伝えきってはいない現状がある。中学生（中学校）に対して、いかに効果的なPRを行っていくにはどうすればよいか。	1 広報活動を充実させ、本校の魅力をPR（動画を活用し、管理職以外の教諭による広報活動） 2 業務改善の推進により、質の高い教育活動の実現を目指し、生徒と向き合う時間を確保する。	1 「SHOYOムーブメント」のチラシや、学校紹介用のポスターを作成した。 2 業務改善アクションプランに係るフォローアップ調査の結果を踏まえ引き続き業務改善に努めたい。

資料2-1 学校教育活動に関するアンケートまとめ

Classiによる回答（12月4日～10日実施） 「とてもそう思う」＋「そう思う」の%割合		生徒		保護者	
		R2年	R元年	R2年	R元年
1	服装容儀の規則は常にきちんと守っている。	98.8	96.1	97.9	99.2
2	時と場をわきまえた礼儀・挨拶を行っている。	97.8	97.6	96.8	95.8
3	授業時には常に1分前に着席している。	71.7	71.1	93.8	93.1
4	毎日、教科書類は持ち帰り、自分のロッカー等は整理している。	64.9	58.7	54.1	50.1
5	朝読書時には、必ず読書に取り組んでいる。	69.1	58.1	34.1	32.5
6	スマホ等の利用は、学校・家庭内のルールを守るようにしている。	94.7	93.4	66.2	60.3
7	他人や社会に貢献・奉仕する意義を感じている。	86.2	81.5	69.4	69.6
8	学級や生徒会の仕事は最後まで責任をもってしている。	95.4	92.8	78.1	72.7
9	清掃には毎日一生懸命取り組み、環境美化に努めている。	96.6	91.1	52.4	52.5
10	Classiの活用など、学習時間の確保、学習の習慣化に努めている。	36.7	34.7	47.4	45.4
11	必要な予習・復習・課題・考査の復習等は確実に終わらせている。	63.3	53.1	50.3	59.2
12	授業の聞き方ノートの工夫、学習法の改善、計画等を実践している。	72.4	66.6	47.7	45.5
13	進路について調べたり、深く考えたりする授業やLHRを受けた。	87.2	78.6	61.4	65.1
14	保護者は進路や学習等について積極的に相談に乗ってくれる。	90.1	84.9	79.3	75.6
15	自分の目標とする進路は、具体的かつ明確である。	59.8	66.1	60.2	65.4
16	学校で人とのコミュニケーションで悩むことがあまりない。	71.8	73.8	74.8	78.2
17	相手の立場や考え方を意識して、適切な言葉遣い等に努めている。	98.3	96.2	90.8	91.8
18	会話等にて他人の話には静かに耳を傾け、理解しようと努めている。	99	95.5	91.2	89.7
19	話し方や言葉遣いに関する授業やLHRを受けたことがある。	48.9	49	79.2	76.2
20	通学時には地域や駅の方々に挨拶等をしっかりしている。	79	80.5	93	86.4
21	配布される保護者宛での通信等は必ず渡している。	86.9	81.5	79.8	78.1
22	先生が生き方や進路について親身に相談に乗ってくれる。	86.5	73.1	86	81.1
23	先生の助言・指導などは、家庭でも話題にしている。	69.1	60	74.9	69.3
24	先生から、よく声をかけてもらっている。	75.4	67.9	75	74.2
25	先生はいろいろな意味で頼れる存在である。	87.5	75.9	88.4	83.8

《今回のマイナス項目について》

生徒⑮⑯⑲⑳、保護者①⑪⑬⑮⑯⑰のうち⑮⑯については、生徒、保護者共にマイナスに転じている。今日の不安定な社会情勢や新しい生活様式でのコミュニケーションのあり方など、様々な不安感が影響しているとみられる。生徒が将来について閉塞的にならないように、職員側から前向きな将来像や、可能性等について積極的に声を掛ける必要がある。

《前回の課題について》

生徒⑤⑪、保護者⑧⑱は前回の課題であったが、今回はプラスとなった。朝読書や提出物の指導が定着したが、今回は保護者⑱がマイナスとなり、課題の取り組みが不十分と見ている。

資料 2-2 学校教育活動に関するアンケートまとめ

Classiによる回答（12月4日～10日実施） 「とてもそう思う」＋「そう思う」の％割合		職員	
		R 2年	R 元年
1	生徒に対して服装容儀等の規則は厳守するよう常に適切な指導をしている。	86.7	98
2	様々な場面で時と場をわきまえた礼儀・挨拶の指導を行っている。	93.4	95.9
3	常に1分前着席を指導し、チャイムとともに開始や終了の挨拶をしている。	66.7	71.4
4	生徒の学びやすい教室等の環境整備(机上、掲示物等)に努めている。	91.1	85.7
5	朝読書は、生徒とともに読書に勤しみ、一致して取り組む指導をしている。	71.1	51
6	HRや授業、部活動等を通じて社会のため貢献する意義を指導している。	93.3	91.8
7	学級の係や生徒会の仕事はきちんとするよう適切に指導している。	97.7	91.8
8	清掃は生徒と取り組み、自分たちの環境を整備する指導を行っている。	97.8	85.7
9	学習習慣の確立のためにClassi等を通じて個に応じた指導を行っている。	48.9	26.5
10	教科指導において、予習・復習・課題等の点検・指導を常に行っている。	97.8	75.5
11	生徒の学力向上につながる授業方法の工夫・改善を毎時間実践している。	95.5	91.8
12	シラバス(年間計画)に基づいた教科指導をしている。	75.5	79.6
13	教科会で各学年ごとの学力分析等を行い、対策を講じている。	68.9	59.2
14	主体的な進路選択できるよう、個に応じた進路学習や指導を行っている。	88.9	91.8
15	生徒が発言する場を設定し、適切な話し方や話す内容等の指導をしている。	68.9	83.7
16	様々な場面で、言葉遣いに対する正しい感覚を持たせるよう気をつけている。	91	87.8
17	人の話に耳を傾ける指導とともに、聞き方や聞く態度の指導に努めている。	90.9	91.8
18	教師として適切な話し方や言葉遣いで言語環境の整備に努めている。	97.8	89.8
19	通信等により保護者に学校の情報を発信するよう努めている。	53.4	49
20	担当業務では地域関係者に理解や協力を得られるよう努めている。	75.5	67.3
21	教育相談等においては生徒の個性や資質が生かされ、個々の生徒が主体的に判断・行動し自己を生かしていけるような対話を行っている。	97.3	95.9
22	生徒・保護者の理解や納得を得られるよう、信頼関係の構築に努めている。	100	98
23	特に問題をもつ生徒等へは、声かけをするなどの配慮をしている。	97.7	100
24	学習指導、進路指導、生徒指導、保健指導等の研修に努め、常に信頼感のある教師になれるよう努めている。	97.8	95.9

《今回の課題点について》

前年度と比較して、5%以上マイナスとなった項目が①服装容儀等の指導、③1分前着席やチャイム開始・終了、⑤発言や話し方等の指導である。緊急事態宣言による分散登校や、豪雨災害による臨時バス登校、また感染拡大防止とともに熱中症予防を講じた指導により前年度との比較に影響があると思われる。行事や実技指導等では、感染リスクを回避するため年間指導計画の調整や代替指導などを工夫して対応することとなった。職員はそれぞれの場面において、生徒の健康面や家庭環境にも留意し良く観察しつつ、丁寧な対応や指導を行っている。

資料3 業務改善アクションプランに係るフォローアップ調査等の結果

調査1 あなた自身は業務改善に取り組んでいますか。次の選択肢の中から選んで教えてください。
 (選択肢) 1 積極的に取り組んでいる。 2 概ね取り組んでいる。
 3 あまり取り組んでいない。 4 全く取り組んでいない。

選択肢	1	2	3	4	単位 (%)
県	13.3	70.8	15.8	0.6	
9月松陽	13.9	70.8	15.3	0	

R2年度末→80%以上目標
 1+2=84.7% 目標達成!

調査2 あなたは学校における業務改善が進んでいると感じますか。次の選択肢の中から選んで教えてください。

(選択肢) 1 十分感じている。 2 概ね感じている。
 3 あまり感じていない。 4 全く感じていない。

選択肢	1	2	3	4	単位 (%)
県	5.3	56.4	34.8	3.4	
9月松陽	1.4	61.1	36.1	1.4	

R2年度末→70%以上目標
 1+2=62.5% 目標達成まで後7.5%(人数でいうと6人弱)

調査3 業務改善アクションプランで示した重点取組1から4は、あなたにとって効果が表れていると感じますか。それぞれの重点取組に対して、次の選択肢の中から選んで教えてください。

(選択肢) 1 十分効果が表れている。 2 概ね効果が表れている。
 3 あまり効果が表れていない。 4 全く効果が表れていない。
 5 職種等の性質上、該当しない。

重点取組1 業務改善に対する意識改革

単位 (%)

選択肢	1	2	3	4	5
県	8.0	64.3	25.7	2.0	0
9月松陽	7	70.8	22.2	0	0

R2年度末→80%以上目標
 1+2=77.8% 目標達成まで後2.2%

重点取組2 事務の負担軽減と専門スタッフの活用

単位 (%)

選択肢	1	2	3	4	5
県	3.3	43.3	46.0	7.4	0
9月松陽	1.4	45.8	38.9	5.6	8.3

R2年度末→40%以上目標
 1+2=47.2% 目標達成!

重点取組3 授業準備の効率化と時間確保

単位 (%)

選択肢	1	2	3	4	5
県	4.0	51.8	39.5	4.8	0
9月松陽	1.4	41.7	41.7	1.4	13.8

R2年度末→40%以上目標
 1+2=43.1% 目標達成!

重点取組4 部活動に係る勤務状況の改善

単位 (%)

選択肢	1	2	3	4	5
県	6.5	56.3	31.2	6.0	0
9月松陽	2.8	55.6	25	2.8	13.8

R2年度末→50%以上目標
 1+2=58.4% 目標達成!

令和元年度の勤務時間外の平均在校等時間 →ここからタイムカード導入

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
時間	40.0	49.7	50.4	41.2	27.2	48.8	45.2	33.3	32.5	28.5	26.2	8.9

4月～9月の平均→42.9時間 10月～3月の平均→29.1時間

令和2年度の勤務時間外の平均在校等時間

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
時間	26.0	24.5	30.5	31.1	18.3	29.0	35.9	27.4	27.0	23.3		

4月～11月の平均→27.8時間

○ 勤務時間外の在校等時間が45時間以上

4月・・・5人 8月・・・8人 12月・・・8人
 5月・・・6人 9月・・・12人 1月・・・5人
 6月・・・23人(※100時間以上が1人) 10月・・・22人
 7月・・・16人 11月・・・11人

資料4 令和2年度学校関係者評価委員会委員の意見等

(1) 「学校教育活動に関するアンケートまとめ」に関して

- ・ 生徒・保護者回答分に関して同一の質問に対して、生徒と保護者で、パーセンテージの差が大きいところが気になる。生徒の頑張りが保護者に伝わっていないのか、質問事項に対して保護者がそれを評価するところまでの様子が分からないところがあるのではないか。
- ・ 「話し方や言葉遣いに関する授業やLHRを受けたことがある。」という質問に対する生徒の数値が低いのは、友人関係の悩みが多い高校性の時期において、生身のコミュニケーションの取り方を教えて欲しいという気持ちを反映しているあるのではないかと推察される。
- ・ 「先生型が生き方や進路について親身に相談に乗ってくれる。」、「先生からよく声をかけてもらっている。」、「先生はいろいろな意味で頼れる存在である。」などに係る生徒の回答を見ると、担任以外の教師による積極的な関わりがあったのではないかと推察される。
- ・ 松陽高校でスクールカウンセリングを担当しているが、定員いっぱいになる。これは悪いことでなく、先生たちが生徒のことをよく見ているということ。保護者にそのことが伝わっていくといいと考える。
- ・ 高校でも朝読書に取り組んでいること、その取組が良くなっていることから幅広く教育活動が行われていることがわかった。

(2) 「学校における働き方改革（業務改善）」に関して

- ・ 勤務時間外の在校等時間45時間以上を0人に、というのは現実的には無理があるのではないかと。
- ・ 先生たちの一人ひとりの自己分析が必要（一日の中で何に最も時間を使っているのか）。管理職がどれだけ気を配っても個人の意識が変わらなければ現状を打開するのは難しい。
- ・ 業務改善へ向けた一人ひとりの取組はもとより、教科や学年単位での取組などを試みても良いかもしれない。
- ・ 教員志望者が減少していると聞く。業務改善への取組で教師が生き生きと生徒の前で授業をできること、魅力のある職業であることの発信が、次世代の子どもたちが教師の道を志すことにつながるのではないかと。

(3) 全体を通して

- ・ コロナ禍の一年であった。親としては、今年何もできていなかったという感じがする。しかし、子どもはこの現状から学んだこともあるようだ。

【参考：第2回学校関係者評価委員会における生徒会役員との意見交換から抜粋】

本校生徒：「松陽ムーブメント」の紹介（校内の消毒や、放送での換気の呼びかけなど）

委員A：中学校では、換気やマスクの着用など基本的なことを徹底している。夏は熱中症対策も行いながら。3年生は高校入試が近づいているので特に気をつけている。生徒が多いため密になりやすいが、基本的なことを徹底して集団感染を防ぐようにしている。

委員B：小学校も基本的には中学校と同じであるが、1～6年生と学年差があるため、低学年は先生方が支援し、6年生は自分たちでできるようにしている。インフルエンザとコロナの同時発生は防ぎたい。学校行事ごとに対策を変えている。また、もともと持病のある児童たちにたいする対応の工夫も考えている。

本校生徒：本校の音楽科・美術科は遠方から受験・通学する生徒が多いが、進路選択（志望校）の際に（コロナ関係を含めて）不安だという保護者の声はないでしょうか？

委員A：進路希望調査や三者面談を行い本人の志望で遠方の学校を受験することはある。不安はあるかも知れないが、本校に登校する際もJRだけでなくスクールバスの利用もあり、どうしても密にならざるを得ない状況であり体調管理やマスク着用を呼びかけているところである。

本校生徒：本校では修学旅行が中止になった。小・中学校ではどのような対応をされましたか？

委員A：中学校では修学旅行を実施。5月の予定を延期した上で、クラス毎に分散させるなどして実施した。周囲の人々の見守りを例年以上に実感できたと考えている。宿泊学習に関しては施設に部屋や風呂の人数など制限があり、宿泊なしの体験学習を実施した。